

No.利活用-2-5

働く場での緑やオープンスペースの活用

## 技術の目的

オフィス空間でのバイオフィリックデザインの導入や、オフィスビルの屋上・公開空地などのオープンスペース及び公園や河川敷の緑地など公共空間をミーティングやオフィスワークの場として活用することを通じ、労働環境の改善や生産性の向上を図る。

導入する局面

創出

維持管理

利活用

適用空間

水域

陸域

## 技術の内容・事例

## ■技術の内容

- ・バイオフィリックデザイン (Biophilic Design) 出典<sup>1</sup>とは、「人間には“自然とつながりたい”という本能的欲求がある」というバイオフィリア(biophilia)の概念を反映し、自然の景観や天然素材、植物などを取り入れた空間デザインの手法のことをいう。
- ・この概念をオフィス、都市空間などに空間デザインとして反映することにより、幸福度や労働生産性・創造性の向上、また都市空間に反映することで気候変動や自然災害に対するレジリエンスの確保などに資すると考えられている。

## ■導入事例

## 1. オフィスなどにおけるバイオフィリックデザインや緑化の導入事例

- ・事業所の屋内・半屋内空間に緑や水景を導入することで従業員のストレス改善や生産性向上を狙っている。



屋内の養蜂空間、水の流れるエントランススペースや国内最大の壁面緑化などを取り入れたオフィスビルの事例<sup>出典2</sup>



オフィス街に森を再現しビジネス空間に自然環境を提供している事例（大手町の森／千代田区）<sup>出典1</sup>



オープンエアで距離感の近い水や緑にかこまれた空間を創出した事例（大手町ファーストスクエア／千代田区）<sup>出典1</sup>



民間都市開発と都市公園整備の連携によりオフィスと周辺に自然環境を提供した事例（二子玉川ライズ／世田谷区）<sup>出典1</sup>

## ■出典・参考資料

- ・ 1 国土交通省資料「グリーンインフラの事例」<https://www.mlit.go.jp/common/001286039.pdf>
- ・ 2 ヤンマー株式会社プレスリリース（2017.11.30）  
<https://www.yanmar.com/jp/news/2017/11/30/36746.html>

基本指針との関連

居心地がよく歩きたくなる 水と緑にかこまれたまち		水と緑を楽しみ、 魅力とにぎわい にあふれたまち	水と緑が守り、育む 環境共生型のまち		緑が支える 防災・減災のまち
良好な 景観形成	暑熱対策	人の集う場・ 活動の場	都市の 水管理	都市の生物 多様性確保	防災・減災
		◎			

注) ◎：各基本指針の主要な機能として期待される項目、○：各基本指針の副次的な機能として期待される項目

期待される効果

環境			防災			福祉・教育			地域振興		商業・観光振興					
ヒートアイランド減少の緩和	都市における生物多様性の確保	水質改善	災害（火災・水害など）の軽減	災害時の復旧活動・支援拠点	災害伝承・防災教育の場	健康増進・介護予防	緑の景観によるストレス軽減	子育て支援	環境教育・自然とのふれあい	コミュニティの醸成	地域の自然観・郷土愛の醸成	都市の魅力・競争力の向上	不動産価値の向上	観光・商業振興	労働生産性の向上	労働環境の改善
						●	●		●	●	●	●	●		●	●